

# 新しい口腔管理で集中治療室 入院中の患者の発熱日数を 減らすことに成功

New oral hygiene care regimen reduces postoperative oral bacteria count and number of days with elevated fever in ICU patients with esophageal cancer.  
(*Journal of Oral Science* 2018)



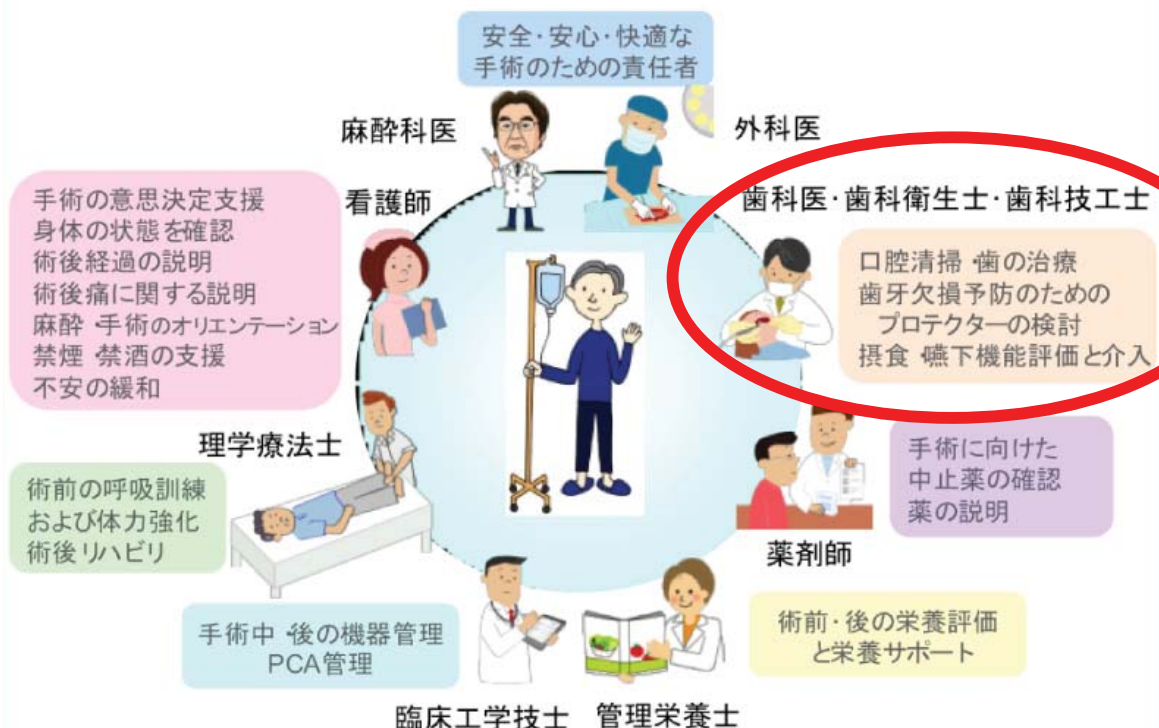
OKAYAMA  
UNIVERSITY

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野

水野 裕文

## 背景

### 周術期管理センターのメンバーの役割



岡山大学病院 周術期管理センターホームページより



OKAYAMA  
UNIVERSITY

# 背景

食道癌の術後では口腔内細菌による肺炎や発熱のリスクが高い可能性がある。



集中治療室では、看護師による術後の口腔管理が行われている。

しかし、その方法については一定の方法はなく、より効果的な方法が望まれている。

# 目的

食道癌患者において、新たな口腔管理法は、従来の口腔管理法と比較して、口腔内細菌数および発熱日数が減少するかどうかを調べる。

# 方法

期間: 2015年1月～同年8月

対象: 岡山大学消化管外科で食道癌の手術を受けた患者 (44名)

研究デザイン: 前後比較デザイン

表: タイムスケジュール

	手術前日	手術日	術後1日目	術後2日目	術後3日目
6時			口腔管理		
7時		検査			
14時	術前 口腔清掃	手術	口腔管理		
21時			口腔管理		

岡山大学病院倫理審査委員会 (受付番号2261)



OKAYAMA UNIVERSITY

# 口腔管理

気管切開チューブのカフ圧を上げる



口腔内の痰及び唾液を吸引

## 既存の口腔管理

舌ブラシで舌清掃

歯ブラシによる清掃



再度口腔内を吸引



ワセリンで口唇周囲の保湿

## 新しい口腔管理

舌ブラシで舌清掃

(過酸化水素)

歯ブラシ・歯間ブラシ・スポンジ  
ブラシによる清掃

(塩化ベンゼトニウム液)



再度口腔内を吸引



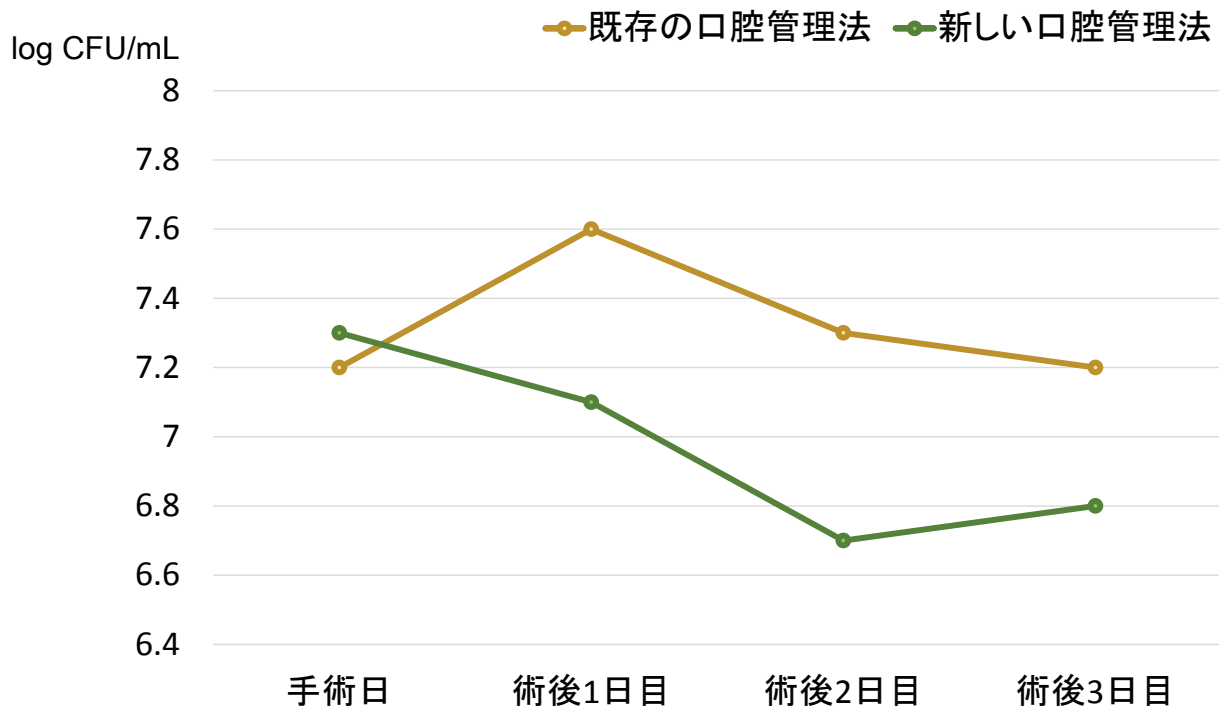
保湿ジェルで口唇周囲  
および口腔粘膜を保湿

気管切開チューブのカフ側孔を吸引後、  
カフ圧を通常の状態に戻す



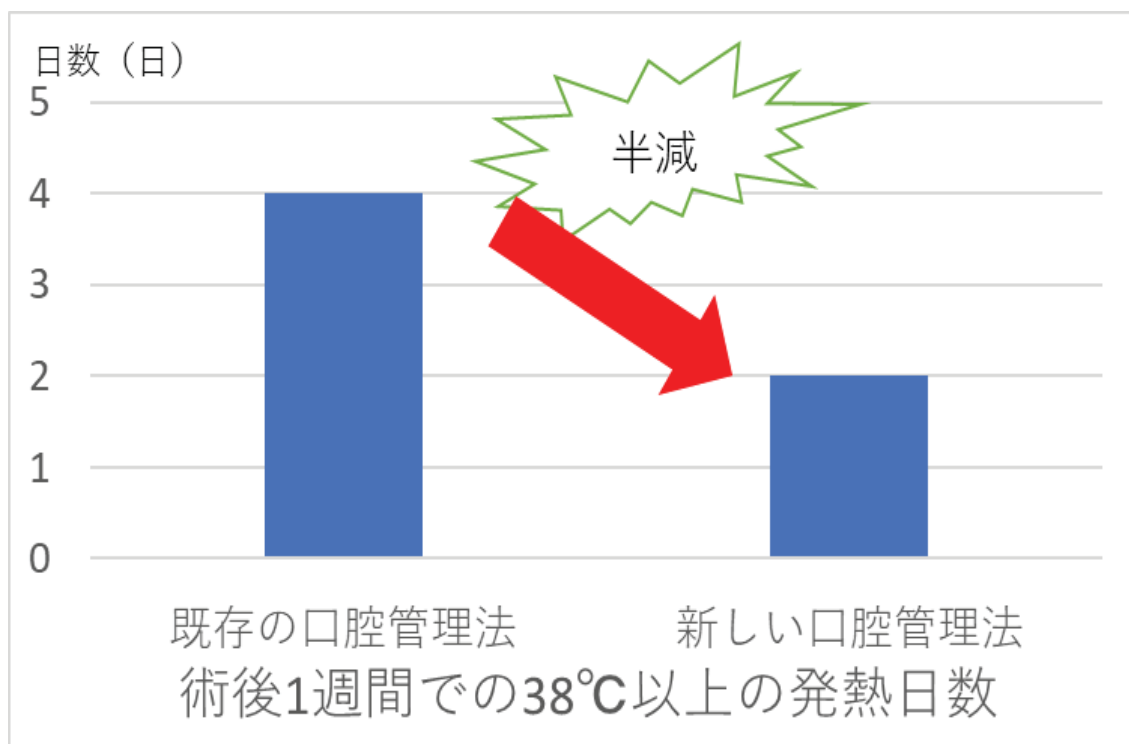
OKAYAMA UNIVERSITY

# 結果



細菌量の経時的変化の比較

# 結果



## 考察

---

新しい口腔管理法では、既存の口腔管理法と比較して、口腔内細菌数が有意に低かった。



歯間ブラシによる歯間清掃、および薬剤(塩化ベンゼトニウム・過酸化水素水)を併用した口腔粘膜の管理を追加することで、口腔管理の質的な改善をすることができた。

## 考察

---

新しい口腔管理法では、既存の口腔管理法と比較して、術後1週間の38度以上の発熱日数が減少を示した。



術後合併症の軽減に貢献できる可能性が示唆された。

# 結論

---

食道癌患者に対して歯間ブラシによる歯間清掃，および薬剤（塩化ベンゼトニウム・過酸化水素水）を併用した新たな口腔管理法は，従来の口腔管理法と比較して，口腔内細菌数および発熱日数を有意に減少させた。



OKAYAMA  
UNIVERSITY

ご清聴ありがとうございました。



OKAYAMA  
UNIVERSITY